

1. 幼児期の重要性

2000年にノーベル経済学賞を受賞したジェームズ・J・ヘックマン氏によるペリー就学前教育プロジェクトの研究成果において、幼児期の学びについて2つの重要な指摘がなされました。

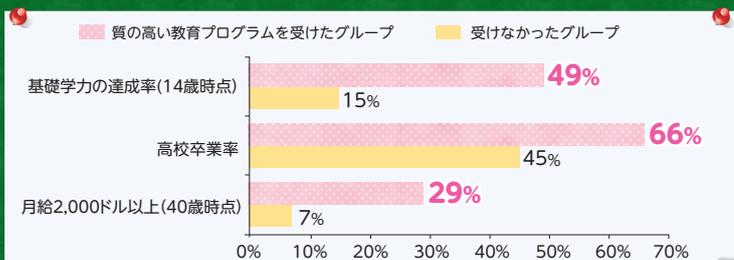
1つ目は、就学前教育がその後の人生に大きく影響を与えるとした点です。2つ目は、就学前教育では知能指数(IQ)に代表される認知能力を育むだけでなく、自己肯定感や主体性、協調性、社会性といった**非認知能力**を育むこともまた、より豊かな人生を送る上で重要だとした点です。



“ペリー就学前教育プロジェクト”

アメリカ合衆国における低所得者層(計58世帯)の3~4歳児に対して、質の高い幼児教育を2年間提供し、同地域でプログラムに参加しなかった子どもと比較する追跡調査が行われました。

※提供された幼児教育の内容
 ・週で週5日(2時間半/1日)、子どもの自発的な活動を教師がサポートする。
 ・教師が週1回の家庭訪問を行い、家庭教育を支援する。



参考資料: The High/Scope Perry Preschool Study Through Age at 40 [幼児教育の経済学/ジェームズ・J・ヘックマン] 2015/東洋経済新報社

2. VUCAの時代

VUCA(ブーカ)とは、Volatility(不安定さ)、Uncertainty(不確かさ)、Complexity(複雑さ)、Ambiguity(曖昧さ)という4つの単語の頭文字から取った言葉です。現代の国際情勢・社会環境を表現するキーワードとして使われています。

将来の予測が困難な現代を生きる上では、一人ひとりが価値ある大切な存在として互いに認め合い、協働しながら様々な社会的変化を乗り越えていく、「持続可能な社会の創り手」になることを目指すという考え方が重要です。幼児教育においても、子どもたちが変化を前向きに捉え、乗り越えていくための力をつけるために何ができるかを、たゆまず考え続ける必要があります。

3. SDGsの取り組み

SDGsとは、Sustainable Development Goalsの略で、2015年の国連サミットにおいて「持続可能な開発目標」として採択されたものです。

広範な分野にわたって、2030年までの17の目標と、そのもとに169のターゲットが設定されています。導入部では、SDGsの大切な理念として「誰一人取り残さない」と謳っており、誰もが暮らしやすい社会を実現することが、これからの時代を生きる私たちにとって重要なテーマです。ターゲットの一つには、「質の高い乳幼児の発達・ケア及び就学前教育」の実現が掲げられています。

岐阜市は、SDGsの達成に向けて優れた取り組みを提案した自治体として、2021年5月21日に内閣府より「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に選定されました。持続可能なまちを目指し、本市ならではの自然や都市の資源を融合したヘルスツーリズムなど、様々な取り組みを進めています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



参考資料: 国際連合広報センター「ロゴ(日本語版)」